

國學院大學學術情報リポジトリ

2020年度国際研究フォーラム「見えざるものたちと日本人」報告書

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-16 キーワード (Ja): NDC8:302.1 キーワード (En): 作成者: 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001625

開催概要

國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所

2020 年度国際研究フォーラム

「見えざるものたちと日本人 The Japanese and the Realm of the Unseen」

2020 年 12 月、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所では、「見えざるものたちと日本人」を 2020 年度の国際研究フォーラムのテーマとし、二つのワークショップ（ワークショップ1「見えざるものをエガク」・ワークショップ2「見えざるものをカタル」）と、基調講演となる国際研究フォーラム「見えざるものたちと日本人」を、一連の企画として催行した。その概要を以下に記す。

◇ワークショップ1「見えざるものをエガク」

【日時】 2020 年 12 月 10 日(木) 19 時 30 分～21 時 30 分

【場所】 Zoom によるオンライン開催

【報告者・題目】(敬称略・発表順)

- (1) 遠藤 美織 (江戸東京博物館)「勸化本における地獄極楽と現世—『孝子善之丞感得伝』を中心に—」
 - (2) 渡邊 晃 (太田記念美術館)「浮世絵に描かれた〈みえざるもの〉」
- 司会：星野 靖二 (日本文化研究所)

◇ワークショップ2「見えざるものをカタル」

【日時】 2020 年 12 月 16 日(水) 19 時 30 分～21 時 30 分

【場所】 Zoom によるオンライン開催

【報告者・題目】(敬称略・発表順)

- (1) 廣田 龍平 (東洋大学)「非人間の／による認識の存在論的造作^{ぞうさく}」
 - (2) ドリュー・リチャードソン (カリフォルニア大学サンタ・クルーズ校、國學院大學国際招聘研究員)「雪、妖怪、ゆるキャラ：北越雪譜と越後のアイデンティティについて」
- 司会：星野 靖二 (日本文化研究所)

◇国際研究フォーラム「見えざるものたちと日本人」基調講演

【日時】 2020 年 12 月 19 日(土) 14 時～17 時 30 分

【場所】 Zoom によるオンライン開催

【報告者・題目】(敬称略・発表順)

- (1) アンドレア・カスティリオーニ (名古屋市立大学講師)「湯殿山信

仰における不可視性と秘密性」

(2) 小泉 凡（小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学部名誉教授）「ラフカディオ・ハーンと〈見えざるもの〉の交渉をめぐって」

(3) 斎藤 英喜（佛教大学教授）「陰陽師からいざなぎ流へ—見えるものから〈見えない世界〉を探る技法—」

コメンテーター（敬称略）：飯倉 義之（國學院大學准教授）

藤澤 茜（神奈川大学准教授）

司会：平藤 喜久子（日本文化研究所所長）

【使用言語】 日本語

【主催】 國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所

本報告書には、上記のワークショップ・基調講演における報告内容をもとに、報告者の方々にご執筆頂いた報告要旨を掲載している。そのため、タイトルや内容など、報告の際のものから若干変更されている場合がある。

また、ワークショップ2ではドリュー・リチャードソン氏に日本語で報告してもらったが、本報告書に掲載する日本語版の発表要旨を作成するに際して、日本文化研究所の研究員である大場あや氏にご助力頂いた。なお、リチャードソン氏には、基本的に同内容の英語版の要旨も並行してご執筆頂いた。内容的には重複するが、英語圏の読者の便も考え、併せて収録している。